

茅野市総合教育会議 会議録

1. 日時 平成28年7月20日(水) 開会 午後 4時00分
閉会 午後 5時50分
2. 会場 茅野市役所 702会議室
3. 出席者 市長 柳平千代一 教育委員長 吉田 一
同職務代理者 小林 智 教育委員 小林 俊恵
教育長 牛山 英彦
- 出席職員 生涯学習部長 木川 亮一 こども部長 牛山 洋治
企画総務部長 柿澤 圭一
学校教育課長 平出 信次 幼児教育課長 牛山津人志
生涯学習課長 小島 吉彦 文化財課長 守矢 昌文
スポーツ健康課長 鋤柄 敏 こども課長 両角 勝元
公民館長 矢島喜久雄 企画戦略課長 小平 雅文
教育総務係長 渡辺 雄一 家庭相談係長 長田 香織
教育総務係主事 丸茂 直樹
4. 傍聴者 4名

茅野市総合教育会議次第

平成28年7月20日（水）午後4時00分
茅野市役所 7階 702会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 事

(1) 小中一貫教育について

(2) 意見交換

- ・要保護児童対策にみる家庭教育の充実の必要性

4. 閉 会

学校教育課長

只今から、茅野市総合教育会議を開催します。
はじめに、市長から挨拶をお願いします。

市長

本年度第1回目になります総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。教育委員の方々には日頃より茅野市の教育にご尽力いただきありがとうございます。今年の2月に教育大綱を策定しました。茅野市の教育、文化振興に関する施策になりますが、その中で基本方針が3つあり、こども・家庭への応援、次世代を担う人づくり、学習機会の充実・場の提供となります。基本方針に沿っての個々の施策を推進していくことで、たくましく夢のあるこども、生きる力を育む、そんな人育ちができるのではないかなと思います。本日はその基本方針にある、次世代を担う人づくり、これからの核となっていくであろう小中一貫教育について忌憚のない意見をいただければと思います。限られた時間ではございますが、しっかりした方向性等をご確認していただければと思います。

学校教育課長

ありがとうございました。
本日、小平光子委員ですが、体調の方が優れないとのことで欠席とさせていただきます。次に議事を進めていきたいと思っております。進行については柳平市長をお願いします。

市長

議事1「小中一貫教育について」ということで事務局からご説明をいただきその後意見をいただきたいと思っております。

学校教育課長

[概要]

なぜ小中一貫教育を進めるのかという所から説明をさせていただきたいと思っております。一般的には小学校から中学校への進学において新しい環境での学習や生活へ移行する段階で、不登校等の生活指導上の諸問題につながっていく事態等（いわゆる中1ギャップ）の解消です。他には小学生の中学校進学に対する不安感の軽減。また、中学生が小学生とのふれあいを通じ、上級生が自覚的となることで自尊感情を高め、生徒の暴力行為や不登校、いじめの解消。小学校の教員は全教科を教えるのに対し、中学校の教員は特定の教科を指導することや、小・中学校では、対象とする児童生徒の発達の段階が異なることから、学習指導、生徒指導の方法が異なり、小・中学校の教職員の職務の性質は自ずと異なっている。小・中学校教員間の違いを教職員同士が認めた上でお互いに学び合い、義務教育9年間で児童生徒を育てる発想をもつ事により、教職員に義務教育段階の教職員であることを認識してもらおう。小中一貫教育の実施により、小・中学校教職員が義務教育9年間の教育活動を理解した上で、全体の教育活動において自分の果たすべき役割をしっかりと認識することで、9年間の系統性を確保する。

また茅野市として小中一貫教育を進める理由としましては、学校間の授業スタンダード

を揃えることで、学校間における格差をつくらない。そのために何をするかというと、ひとりも一人にしないといった学び、小・中学校、変わらない作法での授業観を作る、1人で生きていける力を育む授業、学力向上を行うということになります。

(資料説明)

市長

説明ありがとうございました。今の説明で資料が多く、これを市民に伝える際には整理、工夫が必要だと感じました。教育長から補足等があればよろしくお願いします。

教育長

茅野市の教育が目指す小中一貫教育は「自ら学び、ともに高め合い豊かな学びと生きる力を育む小中一貫教育」という事です。さらにこの中で私たちが一番大切にしているのは、「豊かな学びと生きる力」というところです。私たちは日々の授業でどのように具体的に実現したらいいかを考えています。その文言の前の「自ら学び」というところがありますが、こここのところは子ども達ひとり一人が積極的、主体的に学ぶという授業でなければ、「豊かな学び」「生きる力」には繋がらないと考えています。「ともに高め合い」という文言は、学校の授業で一緒になって共に考え合うという授業でなければ「豊かな学び」「生きる力」にならないということです。今までの多くの学校の授業は子ども達に自ら学ばせるのではなく、教師が生徒に一方的に教えるという授業でした。要するに、講義調の授業になっているという事です。講義調の授業でも、理解できる子は多いですが、分からないという子どもも多くいます。ここを改善しなければ「生きる力」にはならない。生きる力というのは、文部科学省が学習指導要領で、社会の中で一人になっても生き抜いていける力を学校教育で育まなければ、これからは生きていけないとし、「生きる力」を一番の力点として進めています。ところが現実の毎日の授業では5教科の知識を習得するのに精一杯という状況です。学校の先生方は「生きる力」を育むというところについては非常に希薄で弱い。こういったところを改善しなければならないと思います。小中一貫教育という視点から学校教育を考え直さなければ、現在持っている課題は解決できないというところから、小中一貫教育を考えました。小中一貫教育を行っている学校は近年非常に増えてきています。それらがやっている小中一貫教育と、茅野市が目指している小中一貫教育は少し違っています。どのようなところかというところ、全国的には少子化により少人数では教育の成果が上がらないとか、人数が少なくなり大きな校舎の中に子ども達だけが学ぶ、そういう環境では、非常に効率も悪い、負担が大きい、というところを解決するために小中一貫教育を行った方が良いのではないのかという考えをしている市町村もあり学校の統廃合などが進んでいます。子ども達の「生きる力」を育むために小中一貫教育を行うというよりは、本当は学校の統廃合のために行うというような自治体が多いように感じます。茅野市では、生きる力を育むために、何年も前から、先進地に研修へ行ったりして今日に至っております。これが小中一貫教育を行う理由と経緯になります。

市長

確認のため、いくつか質問をさせていただきます。「自ら学び、ともに高め合い豊かな学びと生きる力を育む」ということは確かに必要かと思いますが、それを行うのにどうしても小中一貫教育でなければならないのでしょうか。

吉田委員長

小学校と中学校がそれぞれ別な、方向性を持っていたのでは小学校から中学校へ上がった際にギャップがあるわけです。ギャップが全くないことが良いかは別として、ある程度スムーズな接続というのは必要になってきます。そのためには小中が同じ理念を持って授業を行わなければならない。現実問題としましては、そこを意識して行ってきた学校は少ないかと思います。それをしっかりとやっけていこうというのが、茅野市の小中一貫教育であります。このことによって他の問題が明らかになることもあるかと思いますが、小中一貫教育をやっていくことによって、今の子どもたちなどについても自由度が出てきてそれに合わせた対応もできるのではないかと思います。

市長

極論を言えば、指導観を統一した教師で行えば、小中一貫教育でなくとも、小学校と中学校でギャップが生まれるということはないのではと思いますが、現実ではそんなようにできないので、小中一貫という括りをする事で先生方の指導観を統一するという事でよろしいでしょうか。

教育長

具体的な例で申し上げますと、長峰中学校区では、宮川小学校、長峰中学校、茅野高が伝統的に御柱街道の清掃を一緒に行ってきました。金沢小学校と長峰中学校の児童、生徒が自分たちの地区で花を植えるというような活動をやってきました。一緒になってやることによって小学生は中学生のお兄さん、お姉さんから直接学び取るという事ができます。これは今までの教育では、なかなか学ばせることができないという事実がありました。長峰中学校区のこの例は一緒になって行うということが非常に教育にとって有効だということが分かりました。永明中学校区では永明中学校の体育館で、中学生と米沢小学校、永明小学校の児童会の児童がいじめについて話し合うというような活動をやったことがあります。これも実際の小学校と中学生が話し合うことが非常に教育に有効でした。このようなことがありましたので、私たちは小中一貫教育を行うことを決めました。また、ある中学校区の話になりますが、A中学校には、B小学校、C小学校の生徒が通っていました。国語の授業の際に辞書を使うことがありましたが、B小学校の生徒は、小学校で毎日辞書を使っており使い方は十分に承知していたが、C小学校の生徒は4年生の時に使い方は習ったがそれ以降はほとんど使っていないというような状況でした。よって教える教師側からしても、小学校間でも指導観に違いがあることによって授業の進め方が難しい場面があるということでした。そういうことで同じ中学校区では、同じ考え方、教え方、時間数で統一しましょうということで、小中一貫教育の成果、効果が出るだろうと思い、今回の実施に至りました。

市長

小中一貫でなくても、茅野市教育委員会で茅野市として、教え方等を統一すれば、いいのではないかという、市民の人も出てくると思います。その人たちを納得させるためには、現実問題、小中学校で括っていかなければ難しいといったことを、説明できなければいけないと思います。

小林（智）委員

市長さんが言ったように、茅野市の教育委員会からこれをやってくれというように全小中学校へ伝えた際に、現状ではうまく伝わらないこともあるかと思います。現在4中学校ありますが、4中学校が全部同じではなく、それぞれの学校で特色があり、考え方が違うと思いますので、そこに通う小学校のこどもたちが、スムーズに通えるような形に行くには、小中一貫という形を作って、進めた方がスムーズな形で学び合いが行えると思います。今までこのような形でやってくださいと言っている、やはり各学校でそれぞれ考え方が違うと思います。ひとつの大きな目標に向かって進んでいくというのが難しいということがあったと思うので、小中一貫というような考えが出てきたと思います。それが、小学校のうちに交流があることによって、中学校のことが知れて、いきなり中学校ということがなくなり、ギャップがなくなると思います。

市長

資料にもあるように、子どもたちが学習課題に目を輝かせて取り組み、友達と共にわからない点を共に追求し合い、新たな発見・考え方を身につけていく主体的な学び合い「アクティブラーニング」が展開されなければこの力は育たない、この生きる力を育むために小学校、中学校で、そのような教え方をしていくわけですが、特に茅野市では、小学校、中学校で統一していく、それを効果的に行うために小中一貫教育を行うということによるのでしょうか。

吉田委員長

要は、そうしたものを共通理念として、小学校、中学校として持っていく、すでにそれが小中一貫教育であると私は考えます。ですからそれは、校舎が一緒になるとかいう問題ではなく理念を共有していくということです。今まで小学校区は小学校のカリキュラム、中学校は中学校のカリキュラムというようになっておりましたが、そこを連携していく、繋げていく、そこを貫くものが、豊かな学びなどである。それを小中で一貫して見ていくというのが小中一貫教育であると思います。それに踏み切っていくということはどれも、小中一貫教育の考えに従っていると思います。それだと他の方々、市民の方々に、何で小中一貫教育でなければならないかという、質問の回答に対しては、説得力が弱い回答になってしまうのではないかと、というのが市長のお考えでしょうか。

市長

小中一貫教育でなければ実現できないところことがある。というような、理由が見えないと別に小中一貫教育でなければいいというような市民の方もいるかと思います。

教育長

なぜ小中一貫教育という理念で、行った方がいいのか、ということ茅野市に来ている先生方に共通の理念として、正しく理解してやってもらわないと、形だけ集まるだけでは目的は達成されにくいです。具体的なことでいいますと小学校へ入ってきた子どもたちが、「保育園ではいいって言われた」というようなことが今から7、8年前まではありました。これと同じことが中学でも言われてきました。やはり小学校から指導していかないと、中1ギャップということや、不登校などが発生してしまうと思います。そのために小学校、中学校も同じ理念で教育していく方がいいと考えました。

市長

県単位で教員の異動を行っていますので、県教委で小中一貫教育の教育方針などを決めていただかない限り、茅野市へ来た先生へその都度説明しなければいけないというのが現状になります。その際に新しく来た先生に説明できるようなものも作らないといけないかと思えます。市民の方には、小中一貫教育にすることにより、初めて茅野市が目指している教育ができるというようなことを言ったほうが分かりやすいかと思えます。

こども部長

0歳から18歳まで支援していくという一貫した観念のなかで、幼保小連携、小中連携、一貫を取り組んできた経過があります。そういった小中一貫教育を行うための下地が、他の市町村と比べ、茅野市はあったのだと思えます。幼保小連携も学校の先生が保育園、幼稚園を知ることができ、教育的効果もありました。今回は中学校の先生が小学校の先生を知り、小学校の先生が中学校を知ることができる。これにより一貫した支援に繋がっていくと思えます。なので、これが市民へアピールしていく中で言えることではないかと思えます。

市長

茅野市は、一つの小学校が複数の中学校へ行くような状況です。今回中学校区で取組が異なるということでしたので、豊平小学校では、北部中学校行く人の取組と、北部中学校行く人の取組というのが、出てくると思えます。そういった学校ではどのように小中一貫教育を行っていくのでしょうか。

教育長

私たちが考えているのは、中学校教育はどここの地区へ行っても同じ教育が受けられる、ということを目指しております。最終的には小学校に関しても同様です。どこへ行っても同じ質の教育を受けられるということを考えております。

市長

例えば東部中学校区9年間の目標、「友や地域や共に、心豊かに、夢の実現に向けて努力する子どもの育成」というのがありますが、北部中学校区9年間目標「夢に向かってたくましく生き抜く子ども」とあります。表現は違いますが、基本的には、大きな違いはない

と思います。しかし、微妙に違う部分も出てくると思います。豊平小学校では、北部中学校へ行く生徒と東部中学校へ行く生徒がいますので、意識づけをする際に、どうやっていくのか、共通項目で同じ目標に向かって学んでいくようにしなければいけないと思います。各中学校区での体系は良いと思いますが、中学校区ごとの連携も取っていかねばいけないと思います。

教育長

極論を言えば、表現の違いというように受け止めてください。内容はその言葉のなかにこういう理念がどこの中学校区にも含まれている、というように考えていただきたいです。茅野市の小学校、中学校はどこへ行っても同じ質の同じ教育を受けられることを教育理念としています。現在各学校で特色ある学校づくりを行っておりますが、特色というのはその学校の独自の長年かかって作り上げてきたもので、学校の先生が十分にご指導しなければいけないと思いますが、教育の内容、質においては同じだと考えていただきたいと思います。

市長

教育の質は同じでなければいけないと思いますが、各中学校区に特色があっても良いと思います。この学校では伝統的にスポーツに力を入れてきた、文化系に力を入れて頑張ってきた、それはそれでよいと思いますが、その各中学校へ行く小学校の中で混乱をしないように配慮しなければいけないと思います。

教育長

今日は、茅野市の小中一貫教育とはこういう事、どういったものかを説明させていただきました。ここで表現されていることで、分からないこと、意見等があれば、是非質問等を挙げてください。

学校教育課長

ここの4つの中学校の9年間の目標の他に、4中学校共通の期待する姿があった方がいいのかな、ということ意見を聞いて感じました。先生方と協議をして4校共通の目標のようなものを掲げても良いかなと思います。

小林（俊）

各中学の目標等があってもいいかと思いますが、中学校と小学校の先生方がそれぞれに交流をして、そこで交流した先生がどのように感じるか、どう小、中学校のこども達に伝えていくかが大切かと思います。小規模の小学校規模の学校の生徒が中学校へ行ったときに、小学校でしっかりと基盤を作っていれば問題なかったというようなこともありましたので、小学校と中学校の先生方の交流、勉強の場をとっていただきたいと思います。中学の先生も、小学生が中学校に上がったときのことを考えお互いの学校状況を知ることが出来ればよいかと思います。泉野小学校の児童は、東部中学校へ行くこととなりますが、東部中学校の先生が、やはり最初は泉野のこどもたちを心配していたそうですが、しばらく

してみると、大人数の学校でもしっかりしているというような話もお聞きしましたので、小学校からしっかりと、連携等をしていくことが大切だと思います。

市長

中学校区全体構想があり、小学校については、もちろん茅野市全体の教育目標、学校ごとの特色もあると思いますが、そこはどのように小中一貫教育の中に組み込んでいきますか。

教育長

小中一貫教育をやるための教育理念と、以前からある学校の教育目標は異なっています。小中一貫教育に関する教育目標は小学校、中学校であっても同一であります。学校ごとの教育目標は学校により異なるということです。

小林（智）

各学校区の教育目標は茅野市の教育方針、大綱等が核になって、各学校の目標ができたものと認識していました。各学校の進めていきたい豊かな学び合いのスタイルが共通していることによって、違う目標になってもいろんな面でクリアできていくのではないかと思います。

市長

市民の方に説明する際に、いろんな意見等が出てくると思いますので、それに対応できるような理論、説明等を考えていただきたいです。

次に意見交換「要保護児童対策にみる家庭教育の充実の必要性」ということでこども課から説明をお願いします。

こども課長

要保護児童対策については、要保護児童の早期発見、適切な保護を図るために、関係機関がその子どもたちに関する情報を共有し、その中で適切な対応を行っていく、これが大切だと思います。児童相談所、学校、サービスセンターの円滑な連携を確保するために、要保護児童対策協議会が設置されています。茅野市では平成25年度に設置されています。要対協の意義ですが、地域の関係機関が、子ども、家庭に関する情報を共有するその中で、要保護児童を早期に発見、迅速に対応、支援をすることが図られます。それぞれの機関が責任を持って、関わって支援を行っていくことができる組織になります。実務者会議という毎月の会議がありますが、個別のケース検討についてはそこで毎月行っています。平成27年度は264件の進行管理を行ってきましたが、本日はその中からいくつか紹介させていただきます。

こども・家庭相談係長

資料説明

市長

説明がありましたように平成27年度は進行管理を264件行ってきたということで、思っている以上に支援をする家庭が多いのが現状です。また複数の要因があって簡単に終結しない部分もあります。親育ちというものも茅野市にとっても大きな課題になります。いろいろな形で親にアプローチをとっていますが、なかなかうまくいかないというのも現状です。教育委員から何か感じたこと、意見等があればお願いします。

吉田委員長

茅野市はこういった面で合同会議というような形を比較的多くやっている市だと思えます。そのことによって救われている児童、家庭が多いと思えます。家庭をしっかりとすることも大事ですが、こうした形で個別ケースの対応をしっかりとやっていくことが大切だと思います。茅野市にある、問題のある家庭をどうやって支援していくかが重要になると思えます。

小林（智）委員

もっと早い段階から理解ができていると、要保護児童がもっと減ってくるのだろうかと思えます。定例教育委員会でも言いましたが、保育園などの保護者の発達障害に対する理解がなかなか進んでいないと思えます。頭ではわかっているようなつもりになっているというのが現状だと思います。自分たちの地域にそういった子ども達がいるのが当たり前というような理解が進んでいけばいいなと思えます。

小林（俊）委員

昔のような人と人との繋がりが現代においては希薄になっています。このことは子育てや、育ちにも影響を与えているのではないかと感じています。

入学当初、落ち着きがなかった子どもも、数週間後に会った時には、落ち着きが出てきていました。先生方の力を感じるところでありまして、教え方によってはこんなにも変わるのかと感じました。

教育長

学校の先生たちが、近年、児童、家庭の問題に気づいて、関連機関に報告するという雰囲気になってきています。なぜかという、小中一貫教育の方針にもありましたが、「ひとりの子ども一人にしない」ということでもあります。一人になり、悲しい思いをさせない、という考え方から繋げてくださっているからであります。やっぱり、教師の子どもを見る眼力が、最終的には子どもを救うことになりますので、子どもを見抜く力、という教師感性を育まなければいけないと感じました。

市長

どの例をとりましても、一つの要因ではなく複数の要因から、このような結果になっていると思えますので、そういう意味では、実務者会議では、関わっている人がそれについて意見を出して、解決に導いていくという方法しかないと思えます。違う側面からアプロ

一チができるのであれば、積み重ねていきたいと思います。例えばスクールソーシャルワーカーを今年から2名に増やしていますが、そういった方の力を借りて早めに対処すれば解決も早くなるかと思います。保護者の方もそういった方に相談していけば楽になるかと思います。そのような環境づくりをしていきたいと思いますのでご協力をお願いいたします。

以上で議事を終了します。

学校教育課長

ありがとうございました。

以上をもちまして、茅野市総合教育会議を閉会します。